今、英語力・成績が足りなくても、行きたい大学に進学する方法

今からでも目指せる、海外の大学

TOEFL や IELTS といった英語検定試験の対策や、出願準備ができていないけれど、海外の大学にチャレンジしたい、という相談が増える時期です。先輩留学生の中には、卒業を間近に控えた頃から準備を始めて、卒業から半年後には海外の大学への一歩を踏み出した人が大勢います。

その中には、留学を考え始めた頃は、英語力や成績の出願条件を満たしていなかったけれど、目標だった大学を卒業した先輩も少なくありません。それを実現できた理由は、海外ならではの進学システムや、入学制度にあります。その代表的な３つの方法をお伝えします。

編入

編入とは、ある大学で一定期間以上学び、別の大学へ中途入学する制度です。代表的な進学形態としては、日本の高校を卒業後、2 年制大学に入学して編入に必要な一般教養を履修し、準学士号を取得して、４年制大学の３年次に入学する方法があります。

このシステムの大きなメリットは、４年制大学よりも、2 年制大学の方が、入学時に必要とされる英語力や高校の成績が低めに設定されていることです。高校の成績や英語力が十分高くなくても、2 年制大学の成績次第で、進学先の４年制大学の幅が広がります。また、アメリカの一部の４年制大学で求められる SAT などの統一学力試験や、難しいエッセイも不要なので、留学生にとっては出願しやすいといえます。留学後の頑張り次第で道が開けますから、高校の時に目標としていた大学の卒業証書を手にすることも、夢ではありません。

さらに、授業料についても、４年制大学よりも２年制大学の方が低く設定されていることが多いため、初めの２年間で、大きな節約ができます。

なお、編入を利用したもうひとつの進学方法として、４年制大学から４年制大学への編入という形態もあります。まずは今の力で入れる４年制大学に入学して、その後よい成績

をとって目指す4年制大学へ編入する方法です。

編入は、日本ではあまり馴染みがないものの、アメリカやカナダでは一般的に使われている進学形態です。選択肢の一つとして、ぜひ検討してみると良いでしょう。

条件付き入学

条件付き入学とは、英語力のみを除いて、大学の合格基準に達している場合に、入学の内定をもらえる制度のことです。内定を受ける条件として、決められた時期までに英語力テストのスコアを提出すること、あるいは、大学付属の英語コースや提携する語学学校で学び、規定の英語レベルを修了することが求められます。しかし、規定の英語力を習得すれば入学できるという保証があるため、学生は英語の習得に集中して取り組むことができます。

この制度は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなどの多くの大学で導入されています。

パスウェイプログラムとファウンデーションコース

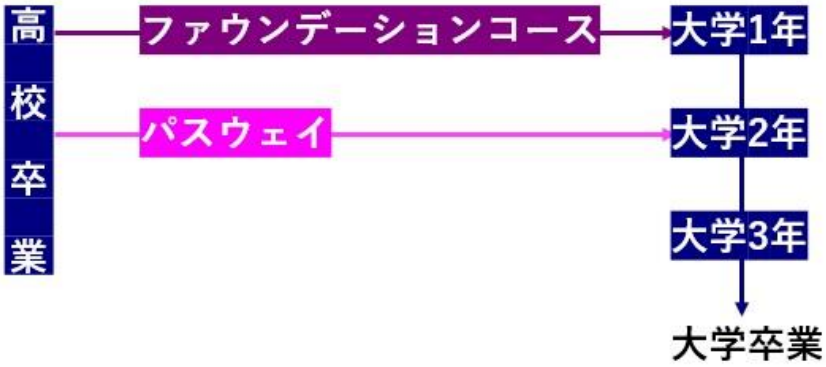
オーストラリアやニュージーランドでは、進学形態の一つに、パスウェイと呼ばれるプログラムがあります。パスウェイプログラムは、留学生を主な対象として編成されたカリキュラムとなっているため、学部への直接入学よりも、英語力や成績の入学条件が若干低めに設定されています。そして、語学力の向上を図りながら大学の授業を受けることができるのが特徴です。

学部課程が3年間の国では、日本の高校を卒業後、原則としてファウンデーションコース（大学進学準備コース）の履修が必要です。このコースを基準以上の成績で修了することで、学部の入学条件を満たすことができます。従って、高校卒業後、ファウンデーションコースを修了後に大学1年次から入学し、計4年間で卒業することになります。

一方で、パスウェイプログラムは、これを基準以上の成績で修了することで、学部の2年次に進学することができ、計3年間での学位取得が可能となります。

シドニー大学やクイーンズランド大学などでは、ファウンデーションコースからの入学が条件となりますが、一方でこのパスウェイプログラムを持つ大学であれば、学部卒業までの期間を短縮することができるため、留学生に大きなメリットのあるシステムとして広がっています。

【パスウェイとファウンデーションコースによる進学形態】



海外の大学は、入学条件だけを見ると、とても入れないように感じる場合もあるでしょう。しかし、ここでご紹介したように、目標とする大学への入学や進学の方法は一つではありません。そのため、海外進学においては、入学する大学より、卒業する大学がより大きな意味を持ちます。卒業までの費用や時間を節約しながら、自分が目指したい大学にぜひチャレンジしてみましょう。